



3 学期始業式 校長式辞より

みなさん、明けましておめでとうございます。

総合文化部のみなさんが、新年をお祝いする生け花を校内に飾ってくれました。そのような中、みなさんが元気な姿で3学期の始業式を迎えられたことをうれしく思います。



始業式にあたり、私からみなさんに期待したいことをひとつお話しします。

それは「援助希求力」を高めることです。この「援助希求力」とは、自分が困った時に助けを求めめる力です。例えば、勉強でわからないところがあった時に、仲間や先生に質問できる力であり、様々な悩みごとがあった時は、友達や家族や先生に相談できる力です。みなさんの中には、勉強でわからないところを職員室に来て質問したり、困りごとを担当の先生に相談したりしている人もいますが、それも「援助希求力」を発揮している姿だと思います。

また、これからの時代は益々変化の激しい社会になると言われています。時には、自分の力だけでは解決できない壁にぶつかることもあると思います。そういう中でたくましく生きていくためにも、この「援助希求力」は必要です。

さらに、みなさんはこれから海外に行くチャンスも増えると思いますが、文化や生活様式の違う外国で困った時に、「援助希求力」を発揮することができれば、世界中どこの国に行っても、様々なことにチャレンジする勇気が湧いてくると思います。

ただ、「援助希求力」を発揮するということは、人任せにすることとは違います。問題の解決に向けて、まず自分で努力してみることが大切です。また、人から助けを求められたら、それに応えてあげることや、誰でも「援助希求力」を発揮しやすい雰囲気づくりも重要です。

このように、今学期は一人一人の「援助希求力」を高めるとともに、それを発揮しやすい学校・学年・学級、そして部活動の雰囲気づくりを期待します。

最後に、この3学期は授業日が48日しかありません。1学期の74日、2学期の83日と比べてとても短く、あっという間に過ぎてしまいます。3年生にとっては卒業までのカウントダウンにもなります。どの学年も、今日からの3日間で生活リズムを作るとともに、「時を守り、場を清め、礼を正す」という行動指針を大切にしながら生活し、平成30年度のまとめにふさわしい3学期になることを期待して、式辞といたします。

平成31年 1月 8日 山形市立第一中学校 校長 新野 彰

「一中いのちの日」 校長講話 ～フータンに学ぶ～

1月8日（火）の始業式に引き続き、校長先生より、「一中いのちの日」の講話をしていただきました。

はじめに堀米先生から、ブータンが「世界一幸せな国」と言われていることについて、右のプリントを使いながら説明がありました。

九州の0.9倍の面積で山形県より少ない人口のブータンの人々が、なぜ自ら幸福だと感じているのか。そこには、私たちにとっては当たり前であるがために忘れていたり、気づかないでいる価値観があるのかもしれません。

そのあとに、校長先生が、山元加津子さんという女性作家が書いた旅行記を読みながら、みんなでブータンという国を想像して、「本当の幸せとは何か」について一人一人考え、仲間と話し合ってみました。

「いじめはありますか」の質問に対して「そんなことしたら自分をすきになれない」と言った男の子、「みんなが幸せだったらそれが幸せ」と言ったガイドさん・・・



子ども達からは、ブータンという国の考え方の素晴らしさや何気ない日常が一番大切であることに改めて気づかされたという感想がたくさん出されました。

総合文化部が飾った校長室前の生け花の横には「幸福が訪れますように」というメッセージが添えられています。ブータンの風が一中にも届いているように感じられます。



全校で3年生を応援します!!

1月17日（木）に2年生の生徒会執行部が中心となり、『3年生を励ます会』を開催しました。

各学年から3年生のために作成した応援メッセージが激励の言葉とともに手渡され、応援団を中心とした全校生による心からの応援で激励をしました。

また、3年生からも力強い決意が述べられました。



本格的な受験シーズンに入りました。3年生は体調に気をつけ、一日一日の取組を大切にして、進路実現に向けて努力してほしいと思います。



合格の願いを込めてお守りに入れた「祈・合格 真向勝負 山形一中」のお札